

モーモー輪地切りのポイント

1. モーモー輪地切りに活用する牛は放牧経験豊かな高齢牛が最適です

限られた狭い輪地内での放牧生活では、牛群が安定していることが重要です。今回活用した牛は放牧経験豊かな高齢牛が主体となりました。また、群の安定にリーダー牛がいることも重要なことです。

放牧経験豊かな
リーダー牛18号
年齢は13歳 ▶



2. モーモー輪地内に必ず水飲み場を確保しましょう

牛群の生活と安定には必ず水飲み場が必要です。B牧区の牛の行動調査（12時間・7:00～19:00）では、水場からその日のうちに800mまで移動しました。このことから、1箇所の水場で最低でも1600mの輪地に放牧できることがわかりました。



◀ 水飲み場

3. 野草が伸びる夏には電気牧柵をパトロールして、ショートを防ぎます

電牧線に草や灌木が触れるとショートして電圧が低下し、電気牧柵の効果が減退します。夏には適時にパトロールして線に触れている草を刈ります。木落牧場では8月に1回行っただけですみました。



▲電気牧柵のパトロール



◀ソーラー電源

4. 入牧は芽立ちのよい場所から早めを開始しましょう

野草は前年に地下茎に貯蔵養分を蓄え、これを使って再生してきます。芽の出始めに放牧で葉を食べられると、光合成ができなくて再生力が減退します。このことから、入牧開始時期の判断が重要であり、春先に芽立ちのよい場所からできるだけ早期に放牧します。

5. 鈣塩の補給でより楽しい牛の居住区にしてあげよう

狭い輪地の外には多くの野草が見えるので牛は柵の外が気になるでしょう。鈣塩には12のミネラルが含まれ、牛の嗜好品でもあり、精神的な安定と健康保全、さらには脱柵防止にもなるので給与したいものです。



▲鈣塩をなめる牛たち

☆現場からひとこと☆

大滝典雄先生（総指揮・管理）……モーモー輪地は農家が最も導入しやすい輪地切り省力化技術として期待されています。今回の試験では、その効果とともに、これまで疑問だったことや実施の際の留意点もわかってきました。これをステップに、輪地切り省力化の切り札として、ひいては草原維持に向けて普及を図っていくことが課題です。



▲現場説明会にて
左・大滝典雄先生
右・園田盡組合長

園田盡組合長……防火帯として大いに役立つうえ、牛への目が届きやすく、妊娠牛などを入れておく日頃の管理が大変しやすくなりました。今後もモーモー輪地の技術を木落牧場の活用に大いに生かしていきたいですね。



▲右・園田盡組合長
左・園田政光牧場監視人

園田政光氏（牧場監視人）……正直言って、はじめは不安でした。牛が痩せないか、脱柵しないかと…実際やってみて、監視も楽し、高齢者にとってとても有り難い、これからもうまく取り入れていければと思います。

鳴川成清氏（委員・阿蘇地域農業改良普及センター）……野焼き問題は普及事業の重点課題ですから、モーモー輪地切りを普及活動に取り入れたいと思います。

湯浅陸雄氏（委員・元JA阿蘇農協支所長）……農村の高齢化は毎年確実に進んでいます。牛のもつ採食能力、登坂能力を生かしたモーモー輪地の普及が草原の活性化に直結すると思います。